

し もの い い もの し そ あな ふさ そ もん と  
知る者は言わず、言う者は知らず。其の穴を塞ぎて、其の門を閉ざ  
そ えい くじ そ ふん と そ ひかり やわ そ じん  
し、其の鋭を挫いて、其の紛を解き、其の光を和らげて、其の塵に  
どう これ げんどう い ゆえ え した え うと  
同ず。是を玄同と謂う。故に得て親しむべからず、得て疎んずべか  
え り え がい え たつと  
らず。得て利すべからず。得て害すべからず。得て貴くすべから  
え いや ゆえ てんか どうと もの な  
ず、得て賤しくすべからず。故に天下の貴き者と為る。

【大体の意味内容】 真実の知者は、多くを語らない。無駄にやたらとしやべる者は、真実  
の知者ではない。(様々な刺激に誘惑されず、動じないとこころは) 目・耳・鼻・口などの感覚器  
の穴や門を塞いでしまっているようでもある。他人を批判し、論破しようとする舌鋒の鋭  
さを挫いて、おだやかに紛争を解決する。人並外れた知恵者であるような光を和らげて、  
むしろ塵芥と同等であるかのようにへりくだっている。こうした生きざまを「玄同」つま  
り「目には見えない深みにおける同一」というのである。したがってこのような人には、  
うまみのあるエサを与えて引き寄せ、親しむと見せかけて利用しようとすることはできな  
い。遠ざけて疎遠にするにはあまりにも惜しい存在なのでそうもできない。利益を与えて  
こちらの都合の良いように支配することもできない。脅迫し、損害を与えようとしても、  
何かに加護されていてできない。貴い身分地位を与えることで、自分に平伏させるとい  
う狙いも通用しない。卑しい身分に突き落としても、人々からの人望篤く、いつの間にか多  
くの人々から頼りにされるので、救済を求めて権力者に泣きついてくるということもな  
い。(ようするに姑息な手段を弄しての攻撃が一切通じないのである。) このような者こ  
そが、この世で最も貴い存在である。

有名な四文字熟語「和光同塵」(自分の知恵や徳を和らげ、世間の塵にまじえて表さないようにする)の原典に当たる文章です。

「」で語られている「天下の貴き者」は、現代感覚で言えばまるで自閉症の人の様に表現されていますね。しゃべらず、見ず、聞かず、味わわず、議論せず、凡庸で牙えない様子でいて、親しく接することもできない… 今日的な価値観からは真っ向から対立する者の様です。

現代では、「できる人」「成功する人」の条件として「コミュニケーション能力」が盛んに喧伝されています。それと同じくらいに、様々な分野の「コンサルタント」と称する人々がやたらと強調するのが、「雑談力」です。こうした「多言を弄することにおいて多くの人脈を作ったり、交渉をまとめたりすることが社会の中で生き残ってゆくための至上問題であるかのこと」です。

しかし本当にそうなのでしょうか。

いわゆる口下手な人、寡黙に働く人、趣味をたくさん持っているわけでもなく、気軽に親しみやすいというわけでもない人、そんな人々は、いわゆる「負け組」として、社会から、この世から退場すべきなのでしょうか。むしろ、実はこんな人たちこそ、普通の人が嫌がることでも必要ならば静かに引き受け地道に丁寧になし、私たち全体を支えてくれているのではないのでしょうか。

こういう人々こそ、現在生きている人たちとの「コミュニケーションを、必ずしも円滑に行えてはいないとしても、未来の生命たちを思い、未生のかれらと魂の「コミュニケーションをしっかりと取り、絆を深めている人々とは、言えないのでしょうか。



『ムーミン』に登場する、さすらい人スナフキン。特に英雄的活躍をするわけでも、何かの役に立つわけでもなく、時折ムーミン谷に現れては、釣りをしたり楽器を奏でたりして無為に過ごしている。ムーミンたちに慕われていて、悩みごとなど打ち明けられて、それを聞いてあげるだけで特に何もしない。でもムーミンたちはスナフキンに話を聞いてもらううちに、自分で解決する術を見つけてゆく。